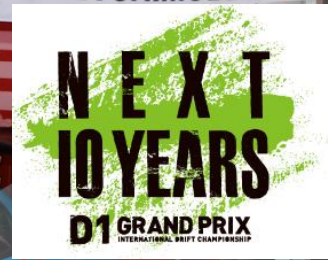




# 23 Sayaka.S



D1NEXT10YEARS広報部長

**< D1Lights Rd3&Rd4 リザルト >**  
於: 奈良県名阪スポーツランド コースC  
日時: 2022年5月21日、22日  
Rd3: 単走3位(52台中)  
追走ベスト8  
総合順位6位  
Rd4: 単走15位(52台中)  
追走ベスト16  
総合順位16位  
シリーズポイントランキング(第4戦終了時)  
単走ランキング7位  
総合ランキング13位



2022.06.01





# D1 Lights 名阪サーキット大会レポート（1）大会直前編

一年ぶりに走行するサーキットのうえに、エスケープゾーンが無く、コンクリートウォールに囲まれ、関東のサーキットには少ない時計回り(右コーナー)の名阪スポーツランドで、D1LIGHTSの第3戦・4戦が開催されました。この様な特徴のため、関東勢はコースの攻略に時間が掛かり、地元勢が常に上位を独占する大会でもあります。

## 5月3日・4日 名阪スポーツランド事前テスト:

### <テストの目的>

- ・リアのウイングを三種類試す(昨年が一番高ダンフォース仕様のウイングを使用)
- ・リアタイヤのサイズ・エア一圧決め(昨年は235/35R18のVALINO製08Rをエア一圧2.5~3.0キロで使用)
- ・久しぶりのコースに慣れ、攻略する

上記3点が目的となり、初日は本番マシンより約200馬力程少ない練習マシンでコースに慣れる事から始めました。このテストでマシンのセットが、リアタイヤ265/35R18、新品エア一圧2.0キロ、中古1.5キロ、ウイングは低ダンフォース仕様に決まりました。リアのグリップを上げて十分にマシンをコントロール下に置き、進入車速も昨年より5キロ/hほど上がっても安定し走らせる事が出来ました。ただ、高得点を狙うとなると、改善点はまだまだあるので、本番までに対策をしていきます。

## 5月19日(木) 直前練習日:

この日は公式の走行日ではない為、練習マシンを持ち込み、追走練習と、外から他の選手の走行を見る時間を増やし、走行イメージをしっかりと持つ事をテーマに行いました。特に追走練習は、本番マシンの車速がD1LIGHTSの中でもトップクラスの為、遅いマシンに合わせる練習に重きを置きます。今回は追走で重要となるサイドブレーキの効きを良くするため、GRID1にワンオフのブラケット製作を依頼し、VALINOには強化ブレーキパットを用意してもらいました。

## 5月20日(金) 公式練習日・公式車検:

車検は問題なくクリアし、いよいよ公式練習が始まります。公式練習前の選手ブリーフィングで審査基準のひとつになる「ゾーン」(ドリフトをしながら通過しなければならない1メートルほどのボックス)の場所が発表されます。その時に、大幅な「ゾーン2」の変更が発表され、(当然変更は毎年あるのですが、今まで若干の変更のみで、練習走行は「ゾーン」となる場所を予測しながらの練習になります)選手やチーム関係者は驚きに包まれます。特に今回大幅に変更された「ゾーン2」は、審査員席の目の前で、ホームストレートで最高速を出してから、ドリフト状態に持ち込み、コースの外側に設けられたゾーンを通過する場所になるため、車速コントロールが非常に難しく、ゾーンの中でも通過するのが一番難しい場所になります。その「ゾーン2」が外側のコンクリートウォールに近い場所にさらに約2メートルほど移動したことにより、コンクリートウォールまで約2メートル付近になり、120キロ/h以上の車速からドリフト状態でゾーン入れるのに、失敗すると即コンクリートウォールの餌食に、逆に怖がるとゾーンまで届かなくなると、まさに度胸と技術を試されるレイアウトになったのです。

公式練習で走れるチャンスは15分の走行枠が、翌日本番前の練習走行を含み3回。この中で、クルマのセットアップと、コースに慣れる必要があります。

いざ練習走行が始まると、我々のドライバー「下田紗弥加」は物怖じせず、しっかりと走行ラインを調整し、合わせて走る姿を見せてくれ、関係者からも非常に關心される走りを見せられました。

この状態で明日の本番も走ってもらえると、単走優勝も見えて来る状態まで持ってこれたのではないのでしょうか。



# D1 Lights 名阪サーキット大会レポート (2) 第3戦

## 21日(土) Rd.3 ロングコース

本番前に唯一走行出来る15分間の練習走行でも、ドライバーもマシンも昨日の調子を維持しているため、本番も期待が持てます。

### 本番1本目:

本番は2本走れますが、ウォームアップ走行が無く、コースインから1本目の走行で点数を付けられるので、思いっきり走り2本目に調整してくる選手と、1本目は様子を見て抑えて走る選手とありますが、下田紗弥加は1本目から攻めます。しかし距離調整が入り、高得点にはなりません。この時点でベスト16に入っておらず、2本目に(未出走台数、しかもポイントランキング上位陣)少なくとも10位以内に入らないと、追走に残るのが難しい状況です。

### 本番2本目:

1本目のミス进行调整し、全開アタックをするドライバーですが、練習走行で見せた走りには若干及ばないものの、暫定(約45台走行時点)2位の得点をたたき出します。最終的な単走順位は、後から走行したポイント上位陣の1名に抜かれ3位と言う順位で終了いたしました。もちろんトップを目指していた為、3位には満足出来ませんが、D1Lights参戦してからの最高位をこの難コース名阪スポーツランドで出す事が出来たのは、確実に成長している証拠ではないでしょうか。(関東勢では下田を含め3名しかベスト16に入れませんでした)

### 追走:ベスト16戦:

単走3位と言う事で、下位から3番目の14位の選手と1回戦目は当たります。トーナメント表を見ると、1回戦の相手はなんとD1LIGHTSの選手会長を務め、優勝経験もあるベテラン「伊藤満紀」選手になります。車速データでも、700馬力オーバーの車両の伊藤選手は下田紗弥加より2~3キロ車速が高く、非常に技術・経験もあることから、作戦的には、「全力で自分の持っている物を出し切る」事しかありません。単走順位の高い選手が先行スタートとなる為、下田紗弥加が先行スタートします。

最終コーナーを抜けた時点で、伊藤選手を若干ですが引き離しております。そしてそのまま審査コーナーへ飛び込みまさに練習通りの走行を見せ、審査員からも「単走なら優勝!!」とまで言わしめる走りを見せ、1ランクポイントを取り、また後追いでも伊藤選手のミスもあり、冷静に走った下田紗弥加が勝ち、トーナメントベスト8に駒を進めました。

### 追走:ベスト8戦:

次の対戦相手は、A31セフィーロを駆る吉村選手になります。車速的にはこちらが上回り、先ほどの戦い程ではないものの、キッチリと先行を走り相手にポイントを取らせません。後追いでは、少し間隔が開き2コーナーでインを刺したところ、イン側の縁石を乗り越え右足回り(ショックアブソーバー)が折れ走行不能になり、残念ですがここで敗退してしまいました。

総合結果は6位で終わりました。悔やまれる結果でしたが、明日につながる走りを見せてくれ、次戦にも期待が持てます。しかし今までデューワル大会(土・日連戦)で二日共にベスト16に残った事が無いことや、若干のミスにより本日ベスト16に残らなかった実力ある地元選手が、翌日(第4戦)は慣れているショートコースに本気を出してくる事が予想できるため、気持ちを入れ替え、チームとしても明日に備えます。





# D1 Lights 名阪サーキット大会レポート (3) 第4戦

## 22日(日) RD.4 ショートコース(通常コース)

朝一の練習ではコースが変わったことによるリズムの変化を確かめながら走行している為、昨日より思い通りの良さは少し足りない物の、安定感ある走りを見せます。

### 本番1本目:

若干手前からドリフトアングルを付けたため、審査員前の「ゾーン2」にサイドブレーキで伸ばす走りになり、当然車速も落ちるため高得点ではありません。

### 本番2本目:

1本目より奥でドリフトアングルを付ける指示を出しますが、それでも若干手前からになり、その時点で12位と残りポイントランキング上位の10名を残し、安心できない得点でしたが、上位陣も気持ちが入り過ぎからミスが目立ち、何とか15位で通過することが出来ました。

### 追走:ベスト16戦

対戦相手は、昨年D1GRANDPRIXのシリーズチャンピオンのチーム員で、この名阪スポーツランドをホームコースにし、追走を得意としている「速水真之介」選手になります。

しかも後追いからスタートになる為、まずは先行車輛に近づきポイントを取らなければなりません。

スタートをしストレートで近づいているものの、1コーナー飛び込みで先行車輛より角度が薄くなったことから、審査席前で止めきれずアウトにはらんだ所で、少し距離が離れてしまい、ポイントは取れません。

後は先行で全力で良い走りを見せるしか勝機はありません。

しかしながら、名阪の強者にキッチリと寄せられポイントを取られここで敗退となりました。

### 名阪大会総括:

今回の名阪戦で二日間ともベスト16に残った選手は、下田紗弥加を含め9名しかおらず、前日単走優勝をした選手が次の日に追走まで残れない中、関東勢で唯一二日共にベスト16に残ったのが、我々のチームでした。

この様に今のD1LIGHTSは非常に激戦区で、その中で揉まれ、経験値や技術、チーム力を高め、今年中に優勝を目指していきます。次戦は関東に戻り、走り慣れた日光サーキットになりますが、気を引き締め次戦に臨みたいと思います。





# D1 Lights 名阪サーキット大会レポート (4) 下田紗弥加からのご報告



名阪はコンクリートウォールに囲まれたサーキットです！少しのワンミスが廃車になってしまう程、リスクで苦手なコースでした。

初の名阪は2018年D1ライト、単走2本ともフィニッシュまで辿り着けず予選敗退。恐怖心にかけてしまっている自分が悔しくて仕方が無かった事を思い返します。

2年目は何とか全てのゾーンは通過するも、ぬるい走りで予選不通過。

3年目、殻を破る為思いっきり飛び込むも壁に当たり大クラッシュ。

4年目、壁に擦りながらも何とかギリギリ予選通過する事は出来たが、追走の後追いで失敗し敗退。

苦手なコースだからこそ、克服したい。恐怖に打ち勝ちたい。そして名阪で勝ちに行く事こそ自分を成長させ、壁を越える事が出来る。

去年から1年間、どうしたらここで戦う事が出来るのか試行錯誤悩み、考えました。事前練習で、名阪を長年走るマイスターにマシンセットや攻略法を聞いて試したり、普段の練習から壁ギリギリに走る事を意識したり。

そして初心に戻り、なぜ私はドリフトをしているのか？『大好きなドリフトでみんなを笑顔にしたい。』私が恐る恐る走る姿を見て誰が楽しめるんだろうか？そして今日までこうしてドライバーとして走っている奇跡。全てのことに感謝して、今出来ることをしっかりやる。それだけ！あとは楽しもう！そんな心境で挑みました。

rd.3は単走3位、追走6位  
単走は過去、得意な日光での4位が最高位。一番苦手な名阪で単走自己ベストを更新しました。そして追走は先行で攻めるいい走りをするという事が一番の目標でした。ベスト16ではこの日誰も取っていない先行ランク1を取り、それが勝つ事に繋がりました。

そしてデュアルファイナルrd.4は、これも初の2日連続、予選通過。  
結果は華やかなものではありませんでしたが、今回の名阪は過去の弱い自分から脱出する事が出来たこと。そして、ひとつレベルアップした課題を持ち帰る事が出来、越えられなかった壁を4年越しに、やっと克服する事ができました。

何かを達成するためには、楽しいことより、辛い事や辛抱の方が多いかもしれませんが。でも乗り越えた先に成長や自信が培われ、それがまた、その先にあるより高い壁を越えていけると期待しています。ドリフトを通して、私たちの挑戦を発信していく事で、一人でも多くの人に希望や勇気をお伝える事が出来たら嬉しいです。

下田紗弥加



# Gained absolute confidence to overcome the "WALL" of Meihan.





# 自身のネット発信に加え、様々なメディアで情報発信

Drifting SayakaくるくるTUBE

累計2150万回再生

チャンネル登録者数

93,600人

(※人数は22年6月1日現在)



YouTube



◎名阪大会の2エピソードで配信、3日間で30万回再生  
◎多くの「感動した！」というコメントを頂いております。



Instagram

フォロワー数  
70,000人



Twitter

フォロワー数  
19,700人

下田紗弥加のD1GP、D1Lights参戦の様子は毎戦こちらのネットメディアで紹介され;



☆三栄「オートスポーツWEB」 D1参戦レポート掲載



☆カービュー「みんカラ」 <下田紗弥加の可能性> D1参戦レポート掲載



☆D1Videoチャンネル D1NEXT10YEAR広報部長活動報告



加えて以下2誌で下田紗弥加にフィーチャーしたコラムが連載されます;



☆三栄「月刊オプション」コラム<紗弥加のLife is Challenge>連載(7月号~)



☆三栄「月刊オートスポーツ」コラム<下田紗弥加の部屋>隔月連載(8月号~)